

私の戦争体験

父が最期まで語らなかつたこと

7月8日(土)に開催された「円中ふれあいの集い」での体験談を紹介します。

父は、生前、従軍していた時のことをあまり語ろうとしませんでした。幼い頃、一緒にお風呂に入った時、左腿の銃弾が貫通した傷跡を見せながら、中国の最前線での様子を話してくれました。

父は、「二・二六事件」については、一言も語らず墓まで持って行きました。さぞ重荷を背負った人生であつたと思います。

屋根すれすれを飛ぶ米軍機

昭和11年2月26日、陸軍の青年将校が兵を率いて決起した「二・二六事件」。上官の命令に従い、父は襲撃に一兵卒として加わっていたそうです。

私は、東京の浅草で生まれました。東京大空襲の三日前、昭和20年3月7日に、母と姉の三人で母の実家のある下曾に疎開しました。

疎開先となった下曾我でも、空襲警報のサイレンが鳴ると防空壕に逃げ込む日々が続きました。



鳥海 巨敬さん(円中)

ある時、空襲警報のサイレンが鳴り、防空壕に逃げ込んだ際に、おなががすいたと泣きだした私は口を塞がれ、屋根すれすれに飛んでくる米軍機に聞こえると、叱られた記憶があります。



体験談を語る(円中ふれあいの集い)

しばらくして、防空壕のあつた場所を見た時に、家の裏の土手に掘った簡単な防空壕では、米軍の機銃や爆弾から身を守ることはできなかったのではないかと思います。

戦争の悲惨さを次世代に伝えることも大切なことですが、日本がなぜ、あのような無謀な戦争に突入してしまったのか、問い続けることも必要だと思ひます。

伝えていく 記憶

語り継ぐために

町戦没者遺族会では、文集「戦後71年を経て〜太平洋戦争を語り継ぐ〜」と、戦争体験映像記録DVD「平和の思いを次の世代へ語り継ぐ」を制作しました。

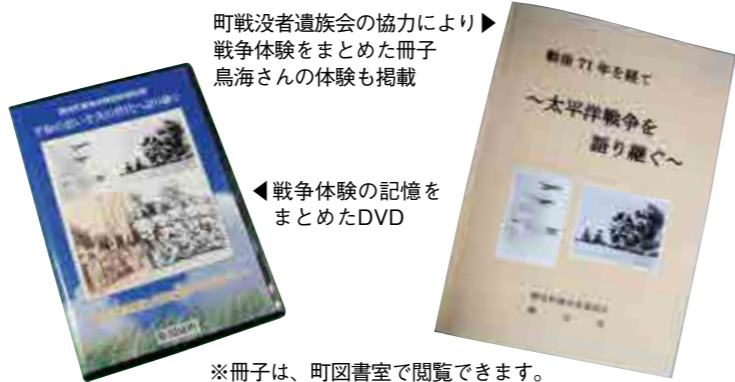
戦争体験のお話を聞いて

昨年12月に開成小学校で「円中戦争体験を次世代に伝える会」が行った授業を聞いた感想をご紹介します。



武藤 真悠さん(金井島) ※現在は中学1年生

「戦争は、どこか遠い国で起こっている出来事だと思っていた」という、子どもたちの感想もありました。しかし、身近な人から直接話を聞くことで、戦争に対する思いは変わるとは思いません。



町戦没者遺族会の協力により、戦争体験をまとめた冊子鳥海さんの体験も掲載

戦争体験の記憶をまとめたDVD

※冊子は、町図書室で閲覧できます。DVDは、福祉課までお問い合わせください。

アニメ「ガラスのうさぎ」上映会 二宮町吾妻山防空壕見学会

主人公敏子の母と妹を奪った東京大空襲の焼け跡には、ガラス工場を営んでいた敏子の父が作ったガラス細工のうさぎが歪んだ形になりながらも残っていた。

そして、敏子の父も、疎開途中の二宮町でアメリカ軍の機銃掃射に遭い、敏子の目の前で命を落としてしまった。

累計発行部数223万部のベストセラーのアニメ上映とゆかりの地、二宮町へ出かけます。

上映会・事前学習

日時：平成29年9月30日(土) 13時30分～16時  
場所：福祉会館 多目的ホール  
対象：どなたでも参加できます

現地見学

日時：平成29年11月4日(土) 9時～15時30分  
場所：二宮町吾妻山ほか  
対象：9月30日の事前学習に参加できる町内小学4・5・6年生とその保護者 20名(子どものみ参加も可)  
※詳しくは、8月15日発行のおしらせ版をご覧ください。

平和のつどい

平和の大切さを町民の皆さんに伝えていくため、毎年開催しています。ぜひ、ご参加ください。

日時：平成29年8月15日(火) 13時30分～14時40分

会場：開成町民センター3階 大会議室  
入場料：無料

講演 「父から聞いたシベリア抑留」  
講師 露木 順一氏

主催：開成町戦没者遺族会  
後援：開成町

町内の慰霊碑

町内には、沖縄をはじめ国内諸外地域において戦没された方々を弔う慰霊碑が建立されています。

慰霊塔(酒田神社)



旧酒田村出身者 85柱

殉国英霊の碑(吉田島2028番地)



旧吉田島村出身者 35柱

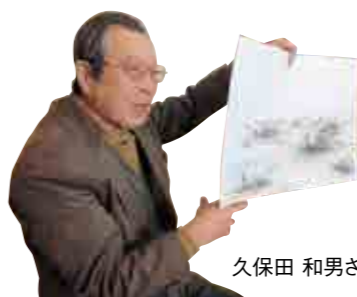
絵の一枚一枚に込められた一人ひとりの戦争体験

今回の特集に掲載した絵は、「わたしたちの戦争の記憶」で紹介されている皆さんの戦争の記憶をもとに、久保田 和男さん(円中)が描いたものです。絵の一枚一枚に、体験された方が見た戦争が描かれています。

久保田さんに絵に込めた思いを伺いました。

私も、小さい頃に戦争を体験しました。幼かったため、戦地に行くことはありませんでしたが、その時に感じた恐怖、ひもじい思いを忘れることができません。そうした思いから、平和のありがたさ、尊さを痛感しています。

いつまでも、平和であってほしいと切に願っています。亡くなった方は、もう話すことはできません。皆さんの体験した記憶を絵にして、これからも次の世代へ伝えていきたいと思ひます。



久保田 和男さん(円中)